

クロアチア月報(2021 年 6 月)

在クロアチア日本国大使館

主な動き

【内政】

- 野党提出によるペロシュ保健相に対する不信任投票案が議会で否決。(6/2)
- 5月末の地方選挙で勝利したトマシェビッチ・ザグレブ新市長への市長交代式が行われた。(6/4)
- 反ファシスト闘争記念式典が初めて政府主催で開催。(6/22)
- 議会は、大統領が推薦した最高裁判所長官候補の任命を反対多数で否決。(6/25)
- 独立記念日(6/25)を記念し首相が演説。3年内の4大目標として、①ペリエシャツ橋の完工、②シェンゲン圏加盟、③ユーロ圏加盟、④多目的戦闘機購入を挙げた。(6/28)

【外政】

- クロアチアが 2022-2024 年国連経済社会理事会理事国に選出された。(6/8)
- ムラディッチ事件国際刑事法廷残余メカニズム(IRMCT) 上訴審判決を受け、政府は、判決を歓迎する声明を発表。(6/8)
- NATO首脳会合に大統領が参加。クロアチアの国防費は(5月の多目的戦闘機購入決定を受け)GDP2%超。(6/14)
- ハンガリーの反LGBTQ法を巡り、同法がLGBTQに差別的であるとして非難するEU加盟国共同書簡にクロアチアは参加しなかったと説明。(6/25)

< 日・クロアチア関係 >

- クロアチア折り紙協会に対する外務大臣表彰伝達式が日本大使公邸にて行われた。(6/10)

【経済】

- クロアチア政府観光局(HTZ)は、2021 年1月から5月の間に、クロアチア国内に 100 万人以上(前年比 42%増)の観光客が訪れたと発表。(6/1)
- 欧州委員会は、シェンゲン圏をより強固なものとするための新しい戦略を発表。同戦略では、目標の1つとしてシェンゲン圏拡大を掲げており、シェンゲン圏加盟への技術的基準を満たしているクロアチア、ブルガリア、ルーマニアをシェンゲン圏に加えるよう求めている。(6/2)

【新型コロナ】

- デジタル・グリーン証明書の発給が開始された。(6/1)
- デルタ株の国内感染が公式発表された。(6/25)

【内政】

6/2 保健相の不信任投票案が否決

野党提出によるペロシュ保健相に対する不信任投票案が議会で審議され、反対多数により否決された。なお、少数与党のリフォーミスト(1議席)は、与党側を支持せずに投票を棄権した。

6/4 新ザグレブ市長が市政を正式に引継

5月末の地方選挙で勝利したトマシェビッチ・ザグレブ新市長への市長交代式が行われた。新市長は、市の財政が予想していたよりも良い状態にはないが、詳細な解決策を今後議論すると述べた。パビッチ・ブキツェビッチ前市長代行によれば、昨年の市の財政は、HRK 9000万(約€1200万)の赤字だった。

6/7 41km²の地雷除去のための予算確保

ボジノビッチ内務相は、本年41km²の地雷除去のために国家予算及び EU 基金から HRK3億9600万 (約€5280万€) 説明。国内では1991－1995年の戦争で残された地雷による汚染の疑いのある土地がまだ 241.1 km²ある。

6/9 地方裁判事が汚職疑惑で逮捕される

汚職・組織犯罪対策本部(USKOK)はオシエク・バラニャ県裁判所の裁判官3名を汚職疑惑で逮捕した。横領容疑で有罪判決を受け、ボスニア・ヘルツェゴビナで逃亡生活中のマミッチ・サッカー・クラブ「ディナモ・ザグレブ」元CEOが、同裁判官3名を買収した述べたことを受け、捜査が行われていたもの。

6/10 ザグレブ地震の被災住宅の解体が始まる

2020 年3月のザグレブ地震を受けて使用不可とされた(赤ラベルの貼られた)住居の解体が開始された。また、政府は、ザグレブ地震及び 2020 年 12 月の中部地震で被災し仮設住宅等で暮らす人々への電気料金支援を6月も継続することを決定。

6/13 最大野党SDP(中道左派)が支部を解体

SDP中央委員会は、5月の地方選挙で結果を出せなかったことを受け、首都ザグレブ市、スラボンスキ・ブロド市及びメジウムリエ県の支部を解体することを決定。

6/16 ザグレブ市で左派2党が連立に合意

トマシェビッチ・ザグレブ新市長(MOZEMO 党首)とグルビンSDP党首は、ザグレブ市議会における両党の連立合意に署名。新市長は連立合意の中で、震災復興、市の部局数削減、財政の透明化、デジタル化を強調。

6/22 政府主催反ファシスト闘争記念式典が開催

反ファシスト闘争記念日に、政府主催の記念式典が開催され、ブレノビッチ首相やミラノビッチ大統領等が出席した。政府が記念式典を主催し、反ファシスト闘争者、左派系野党等も、首相の出席を歓迎。首相と大統領も、政治思想によらない融和を促す挨拶を行った。

6/25 最高裁判所長官人事案、議会で否決

議会は、大統領が推薦した最高裁判所長官候補(Đurđević ザグレブ大学教授)の任命を反対多数で否決した。与党は、法定手続に沿わない形で大統領が同候補を推薦しようとしていたとして、同候補の任命に反対していた。

6/28 独立記念日(6/25)を記念し首相が演説

ブレノビッチ首相は、演説の中で、政府の3年内の4大目標として、①ペリエシャツ橋の完工、②シェンゲン圏加盟、③ユーロ圏加盟、④多目的戦闘機購入を挙げた。また、改革が必要な分野として、司法、行政、国有企業民営化、教育・医療、人口動態・気候変動に言及。

6/30 汚職事件で前ザグレブ市長関係者等を逮捕

警察及び汚職・組織犯罪対策本部(USKOK)捜査官は、故バンディッチ前ザグレブ市長の協力者数人(運転手、元市職員等)及びバチッチ国营放送(HRT)会長等を汚職疑惑で逮捕。

【外政】

6/1 外相がNATOオンライン外相会合に出席

グルリッチ＝ラドマン外務欧州相は、NATOオンライン外相会合に出席し、NATOにとっての西バルカンの戦略的重要性を強調し、NATOがボスニア・ヘルツェゴビナの選挙法改正を支持すべきと発言。

6/4 クロアチアが世界観光機関の理事国に

クロアチアが2021－2025年に世界観光機関(UNWTO)理事会(Executive Council)の理事国を務めることが、UNWTO 欧州委員会会合で決定された。

6/7 ボスニア・ヘルツェゴビナ市民相が来訪

ボジノビッチ内務相は、グデリエビッチBH市民相との会談において、クロアチアがBHにアストラゼネカ社製ワクチン3万回分を寄付したと発言。BH市民相によれば、そのうち1万5千回分はモスタル大学病院に配備され、

残りの1万5千回分はBH全国で使用される。

6/7 メディアの自由に関するグローバル・プレッジに署名

モートン英欧州担当国務大臣がクロアチアに来訪し、オブニェン＝コルジネク文化・ディア相が、同国務大臣の立ち会いの下、「メディアの自由に関するグローバル・プレッジ」*に署名を行った。

* 記者や報道期間の保護を目的とする多国間連合である、「メディアの自由に関するコアリション」の活動目標等を記した宣言文書。

6/8 クロアチアは国連経済社会理事会理事国に

外務欧州省は、クロアチアが 2022-2024 年の国連経済社会理事会理事国に選出されたと発表。クロアチアが同理事国を務めるのは、2000-2002 年に続き2回目。

6/8 外相がベルリン・プロセスのビデオ会合に参加

グルリッチ＝ラドマン外務欧州相は、ベルリン・プロセス*ビデオ外相会合に出席、西バルカン諸国の欧州への道への支持を表明し、特にボスニア・ヘルツェゴビナの安定がクロアチア及びEU全体の利益となることを強調。

* ベルリン・プロセスは西バルカン諸国の地域協力を促進し、同諸国のEUへの統合を支援することを目的としたイニシアチブ

6/8 ムラディッチ事件判決を受けた政府発表

ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争中のセルビア人勢力司令官ムラディッチ被告の国際刑事事法廷残余メカニズム(IRMCT) 上訴審判決で終身刑が確定ことを受け、政府は、判決を歓迎する声明を発表。しかし、判決において、国際人道法の最大の違反行為に繋がった包括的な共同犯罪計画(Joint Criminal Enterprise)に、セルビアの最高位の高官が参画していたことが確認されなかったことには不満の意を表明した。

6/14 NATO首脳会合に大統領が参加

NATO首脳会合に出席したミラノビッチ大統領によれば、クロアチアは首脳会合コミュニケ(のボスニア・ヘルツェゴビナ関連部分)に、 Dayton 和平合意への言及

を入れるべきと主張、6/13の同大統領とストルテンベルグNATO事務総長の電話も受けて、最終的にDayton合意に関する文言が挿入された由。なお、首脳会合前に発表された加盟国の国防費の見積では、クロアチアの国防費が(5月末に決定した多目的戦闘機の購入を受けて)初めてGDP2%超となることが盛り込まれた。

6/15 大統領スロバキアを訪問

ミラノビッチ大統領は、スロバキアにおける安全保障に関する国際フォーラム「GLOBSEC 2021 Bratislava Forum」に出席。また、チャプトヴァー・スロバキア大統領及びドゥダ・ポーランド大統領とも会談した。

6/17 首相及び外相がトルコを訪問

プレンコビッチ首相とグルリッチ＝ラドマン外務欧州相がトルコを訪問し、南東欧協力プロセス(SEECP)関連会合に出席。プレンコビッチ首相はエルドアン・トルコ大統領とも会談し、ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)において選挙法改正に関する合意がなされるよう、トルコからも支持を行うよう要請した。

* クロアチアは、BHにおいて、クロアチア人、ボシュニャク人、セルビア人の3構成民族の平等が確保されるような形での選挙法改正を望んでいる。

グルリッチ＝ラドマン外務欧州相は、6/18 に行われたアンタルヤ外交フォーラムにも参加した。

6/23 クロアチア人欧州人権裁判所裁判官が選出

欧州評議会議会会議は、欧州人権裁判所(EHCR)のクロアチア出身の裁判官として、ザグレブ大学法学部のDerenčinović教授を選出した。

6/24 欧州議会の2つの議決が注目される

欧州議会において、性と生殖に関する健康及び権利に関する報告書が賛成多数で採択。野党SDP出身のマティッチ議員(元退役軍人相)が報告者を務めた。与党HDZ出身の欧州議会議員は賛成票を投じず。

欧州議会はまた、欧州委員会によるボスニア・ヘルツェゴビナ報告書に関する決議を採択。同報告書は3構成民族の権利について言及していないことから、クロアチア出身欧州議会議員は、所属会派にかかわらず、

構成民族の権利に言及する欧州人民党(EPP)の修正案に賛成票を投じた(同修正案は否決された)。

6/25 ハンガリーの反LGBTQ法を巡り首相が発言

ハンガリー国会が採択した小児性犯罪防止法がLGBTQに差別的であるとして非難するEU17 カ国共同書簡が6/24 に発出されたが、クロアチアは参加せず。プレンコビッチ首相はこれに関し、クロアチアはあらゆる形態の差別に反対すると述べたものの、共同書簡には意図的に参加しなかったと述べた。

6/28 外相がV4・西バルカン外相会合に出席

グルリッチ＝ラドマン外務欧州相は、ポーランドで開催されたV4・西バルカン外相会合で、クロアチアによる西バルカン諸国に対するEU加盟プロセスに関する知見及び経験の共有を強調した。

6/30 ハンガリー政府の有料広告が議論を呼ぶ

全国紙 Vecernji List に「欧州の将来に関するハンガリーの提案」と題する広告がハンガリー首相名で掲載され、超国家的なEU、欧州議会の行き詰まり等を批判するとともに、セルビアはEUに加盟すべきと主張。

6/30・7/1 北マケドニア大統領が来訪

ペンドロフスキ北マケドニア大統領は、ミラノビッチ大統領、プレンコビッチ首相、ヤンドロコビッチ議会議長とそれぞれ会談、大統領及び首相とともに、速やかな北マケドニアのEU加盟交渉開始に対する全面的な支持を表明。

<日・クロアチア関係>

6/10 クロアチア折り紙協会に対する外務大臣表彰伝達式を実施

クロアチア折り紙協会は、2012 年から様々な事業を通じて精力的に折り紙の普及に寄与するとともに、当館主催事業にも積極的に協力。大使公邸で行われた伝達式は、同協会のスルブリノビッチ＝チュチェック会長及び会員、並びに、文化・メディア省及び外務欧州省代表の臨席の下行われた。

【経済】

6/1 2021 年1月～5月の観光客数は前年比 42%増

クロアチア政府観光局(HTZ)は、2021 年1月から5月の間に、クロアチア国内に 100 万人以上(前年比 42%増)の観光客が訪れたと発表。そのうち、外国人観光客数は 51.6 万人であった。5月単月でも、クロアチア国内に 45.1 万人(前年比 412%増)の観光客が訪れ、うち外国人観光客数は 31.2 万人であった。

6/1 欧州構造投資基金(2014-2020)の活用加速へ

トラミシヤク地域開発・EU 基金相は、クロアチアは欧州構造投資基金(ESIF)(対象期間:2014～2020)から合計€107 億を利用でき、そのうち 54%は使用済み、残りの€50 億は 2023 年までに引き出す予定と発言。過去 11 か月間で、ESIF を活用した契約プロジェクトの金額は、割り当てられた同基金の 95.43%から 117.27%に 22%増加した。

6/2 欧州委員会がシェンゲン圏の新戦略を発表

欧州委員会は、シェンゲン圏をより強固なものとするための新しい戦略を発表。同戦略では、目標の1つとしてシェンゲン圏拡大を掲げており、シェンゲン圏加盟への技術的基準を満たしているクロアチア、ブルガリア、ルーマニアをシェンゲン圏に加えるよう求めている。

6/2 欧州委員会が欧州セメスターを公表

欧州委員会は、EU加盟国に対し今後の財政政策の指針を示す欧州セメスター(春のパッケージ)を公表した。EU加盟国は、財政規律を定めた安定成長協定の下で、財政赤字の対 GDP 比を3%以下、政府債務残高の対 GDP 比を60%以下に抑える必要がある、コロナ危機を受けて、2022年までこの規律が不適用となるが、2023年からは適用される見込み。他方、クロアチアについては、潜在的なマクロ経済リスクを早期に特定し是正することを目的としたマクロ経済不均衡是正手続きの対象9カ国のうちの1つに挙げた。これは、クロアチアの潜在成長率が低い中で、政府債務、民間債務及び対外債務の水準が高いため。政府債務は、コロナ危機対応のため、2020 年は著しく増加したが、今後減少が

予想される。一方、民間債務の対 GDP 比は、GDP の急激な低下とそれに伴う企業の借入ニーズの高まりを反映して、2020 年は増加に転じた。対外債務については、2021 年に徐々に減少する見込み。

6/8 OECD、クロアチア国有企業のガバナンスを検証

OECD は、加盟各国が遵守する「国有企業のコーポレートガバナンスに関するガイドライン (SOE ガイドライン)」に照らして、クロアチア国有企業を評価した報告書を公表。これは、ユーロ圏加盟に向けた一連の政策課題を是正するため、クロアチア当局の要請により実施されたもの。報告書では、次の問題点と対応策が掲げられている。

【問題点】

- ・クロアチア国有企業に適用される法規制の枠組みが複雑であり、明確かつ包括的な把握が困難。
- ・国有企業所管省庁の役割と責任が不明確であり、省庁間でのコミュニケーション及び調整が不足。
- ・国有企業の商業/非商業目的の活動範囲が不明確。
- ・国有企業の取締役会の役割が制限され、所管省庁又は経営幹部の裁量により運営。
- ・政治家が関与する最近のスキャンダルで示されているように国有企業の悪用リスクが排除されていない。
- ・国有企業は規模が大きく、民間の競争相手との間で公平性を歪める可能性がある。

【対応策】

- ・国有企業の監督調整機関の設立。
- ・国有の論理的根拠や目的を記載した指針の策定。
- ・国有企業の財務/非財務パフォーマンス目標の策定。
- ・既存の関連法を1つの包括的な法律に統合。国有の論理的根拠、利害関係者の役割と責任、取締役等の任命、その他コーポレートガバナンスについて規定。
- ・国有企業のうち、行政機能を担っていない企業は株式会社化。
- ・国有企業に関する年次レポートの作成。
- ・監査人の独立性の確保。
- ・取締役会が戦略を立て、経営を監督する機能の確保。

* 報告書は [OECD Review of the Corporate Governance of State-Owned Enterprises in Croatia - OECD](https://www.oecd.org/corporate/oecd-capital-market-review-croatia.htm) にてダウンロード可能

6/11 首相がCNNに出演

プレンコビッチ首相が CNN の「Quest Means Business」に出演。クロアチアは、コロナ危機において、公衆衛生の保護措置とビジネス・金融部門の支援策の組み合わせにより、対応に成功している、今後7年間でEU基金から総計€250 億を得ることができるため、回復見込みも良好であるとした。

6/14 EIBがコロナ禍を受けた企業への融資を保証

欧州投資銀行 (EIB) 及びクロアチア復興開発銀行 (HBOR) は、コロナ禍を受けたクロアチアの中規模・大企業の回復を支援するための融資のために、€5000 万相当の保証契約に署名した。

6/15 首相、世銀の支援に満足の意を表明

プレンコビッチ首相は、世銀の Bjerde 副総裁 (欧州・中央アジア担当) と会談し、コロナ危機の影響を受けた民間企業や震災復興に際する支援に謝意を表明した。世銀は、昨年、民間企業支援のための \$5 億相当のプロジェクト2件を承認するとともに、EU 結束基金の申請に必要な損害とニーズに関する緊急アセスメント (RDNA) のための技術的支援を提供した。

6/16 OECDがクロアチアの資本市場に関する報告を公表

株式市場の上場条件の改善、新規株式公開による国有企業の上場、社債市場の発展、民間資本市場の動員等を勧告。

* 報告書は <https://www.oecd.org/corporate/oecd-capital-market-review-croatia.htm> でダウンロード可能

6/17 IMD 世界競争力ランキングで 59 位に

スイスに拠点を置く国際経営開発研究所 (IMD) の「世界競争力ランキング 2021」が公表され、クロアチアは 64 カ国・地域中 59 位にランクされた (昨年は 63 カ国・地域中 60 位)。同ランキングは、経営者等へのアンケートやデータをもとに、経済の長期的成長、雇用の創出、福祉の向上に関する能力等を測定するもの。

6/18 2021年政府補正予算案をクロアチア議会可決

当初予算と比較して、歳入は HRK30 億増の HRK1503 億(約€200 億)、歳出は HRK94 億増の HRK1674 億(約€223 億)となった。これにより、財政赤字の対 GDP 比は 2.9%から 3.8%に増加。今回の補正は、医薬品卸売業者への未払債務への支出、雇用維持支援策、短時間労働制の導入等のために組まれたもの。

6/20 モバイルネットワーク総売上高は前年比2%増

ネットワーク産業規制局(HAKOM)によると、2021 年第 1 四半期、モバイルネットワークの総売上高は前年比 2%増の HRK8.9 億(約€1.2 億)、ユーザー数は 436 万人と安定。モバイルネットワーク事業者の市場シェアは、昨年同様、Hrvatski Telekom(HT)が 46%で最大、A1 Hrvatska(35%)と Telemach Hrvatska(19.4%)がそれに続く。

6/23 IMFのミッションが評価を公表

IMFは、パンデミックによる大幅な景気後退にもかかわらず、クロアチアは今後5年で経済を健全に回復させ、EU基金を活用し成長率増加のために必要な公共投資を増やす機会に恵まれていると評価。改革が必要な分野としては、行政(公務員給与・地方制度を含む)、医療制度、国有企業、年金制度等を上げている。国内銀行は流動性を維持し、十分な資本があると評価。

6/25 リエカ港ターミナル建設・使用権落札者決定

リエカ港湾局理事会はリエカ港埠頭拡張工事及び 50 年間の使用権を、蘭企業 APM TERMINALS と国内企業 ENNA LOGIC のコンソーシアムに付与することを決定した。

6/29 EBRDが 2021 年のGDP成長率を6%と予測

EBRDは昨年秋の予測では 2021 年のGDP成長率を 3.5%としていたが、これを上方修正。2021 年第 1 四半期は、堅調な輸出及び建設投資、個人消費の部分的な回復を背景に、パンデミック前の水準に近づきつつあり、第2四半期以降も、ワクチン接種が進み、観光業が回復することにより、この勢いが維持される可能

性が高いとしている。

【新型コロナ】

6/1 デジタル・グリーン証明書の発給始まる

ボジノビッチ内務相は、デジタル・グリーン証明書は e-市民システムや国民健康保険システムにアクセスのある全市民が取得可能、クロアチアの他、独、伊、デンマークも発給を開始していると説明した。

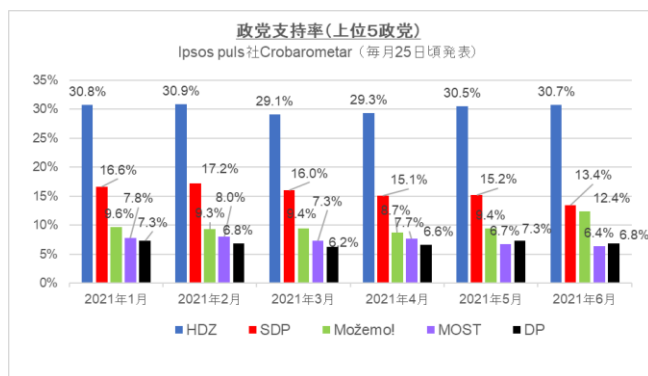
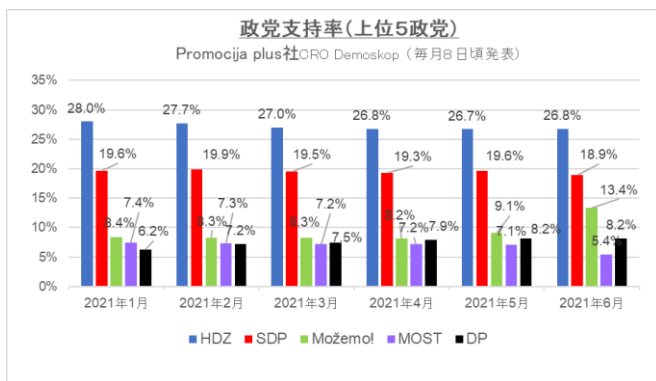
6/18 首相、ワクチン接種の必要性を訴える

ブレンコビッチ首相は、市民のコロナ・ワクチン接種への関心が低下しており、6月末までの達成を目標としていた人口 50%以上の接種の実現は難しいと発言。ワクチン接種の必要性を訴えた。

6/25 デルタ株の感染が公式発表される

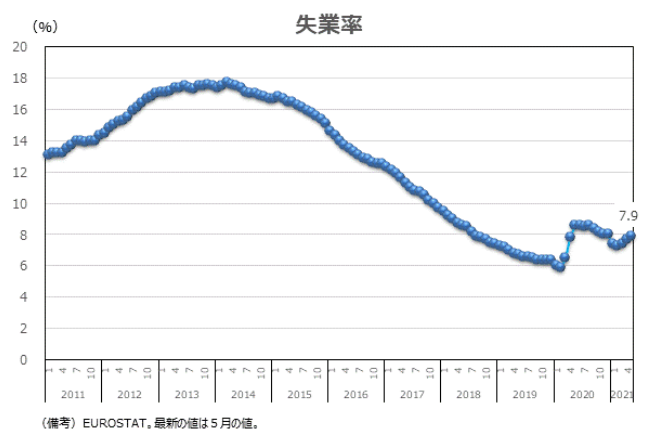
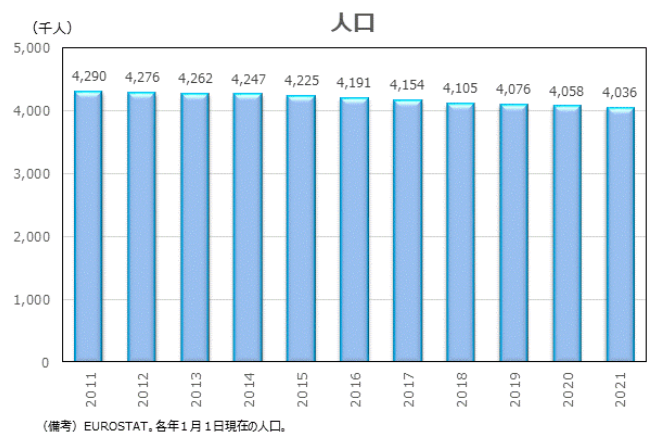
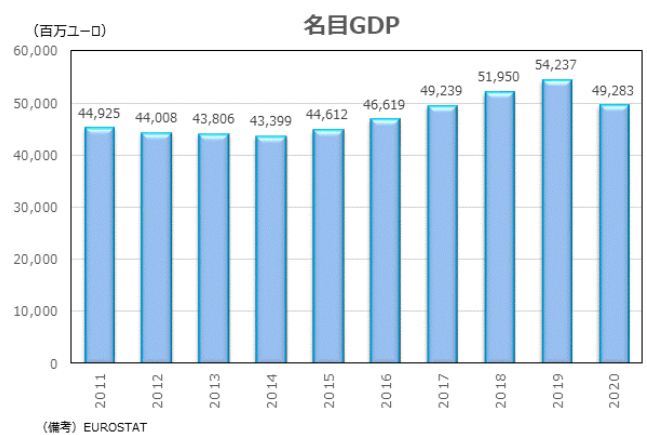
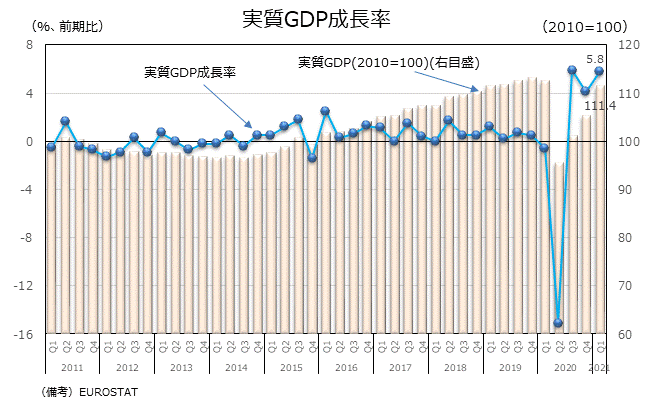
ツァパック・クロアチア公衆衛生局長は、市民保護本部の記者会見において、変異株の感染状況等について、6000件以上のサンプルが解析されており、国内5県において計 23 件のデルタ株が確認されていると述べた。

【政党支持率】

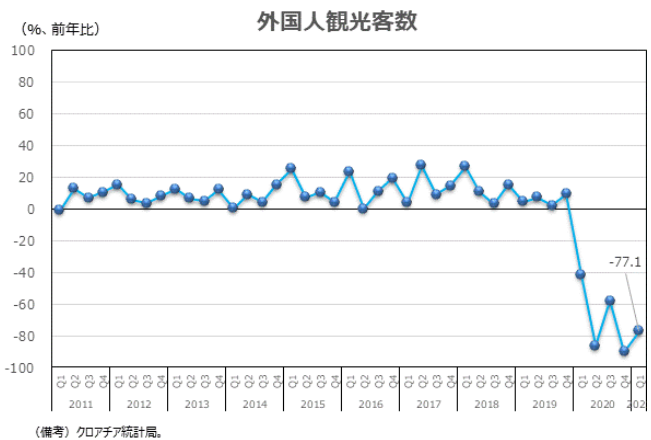
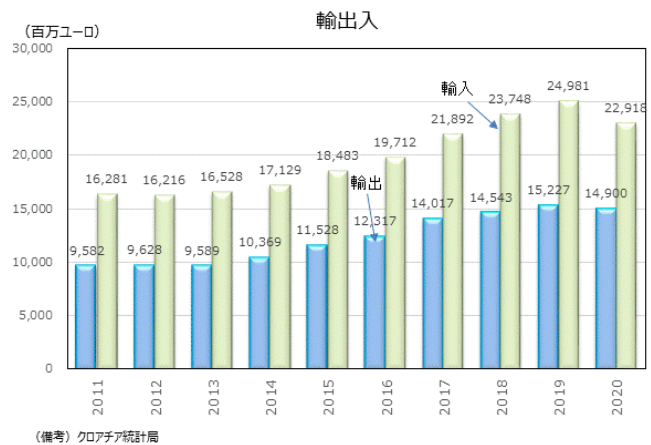
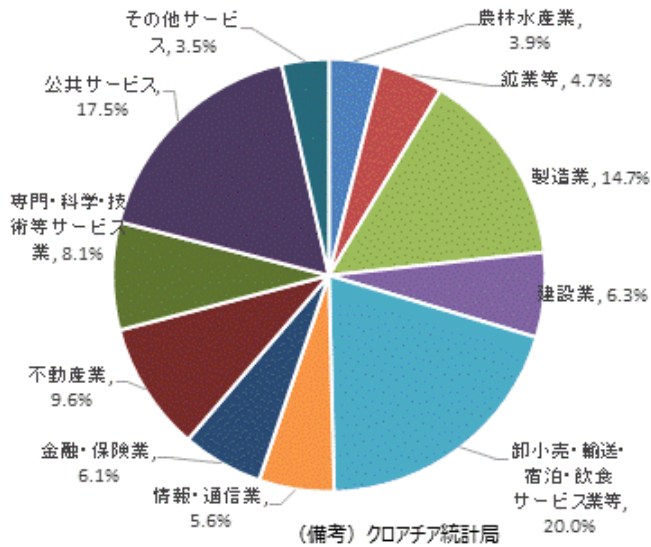


HDZ: クロアチア民主同盟 (与党) (中道右派)、SDP: 社会民主党 (野党) (中道左派)、MOŽEMO!: 我々ならできる! (野党) (中道左派)、MOST: 独立議員リスト (野党) (右派)、DP: 祖国運動 (野党) (右派)

【クロアチア経済指標】



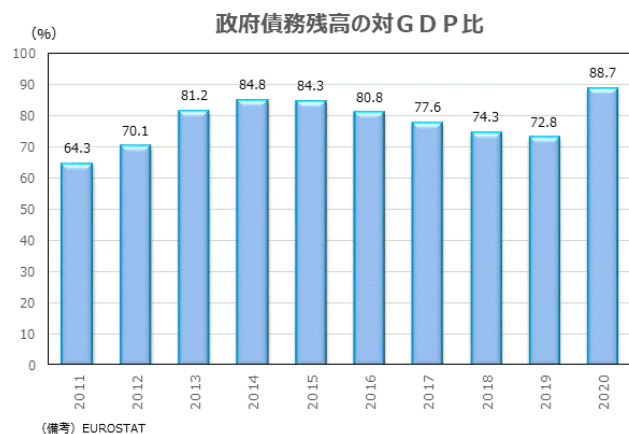
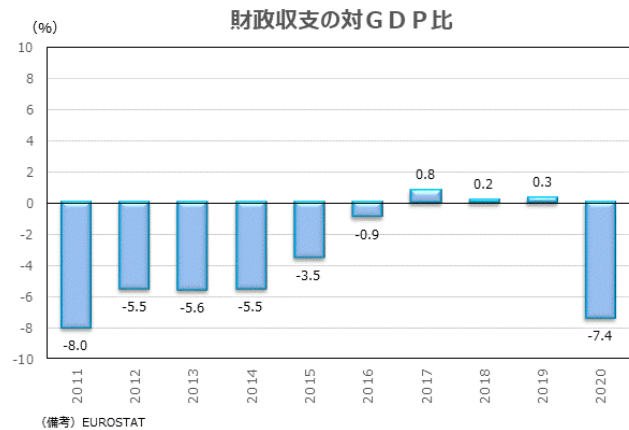
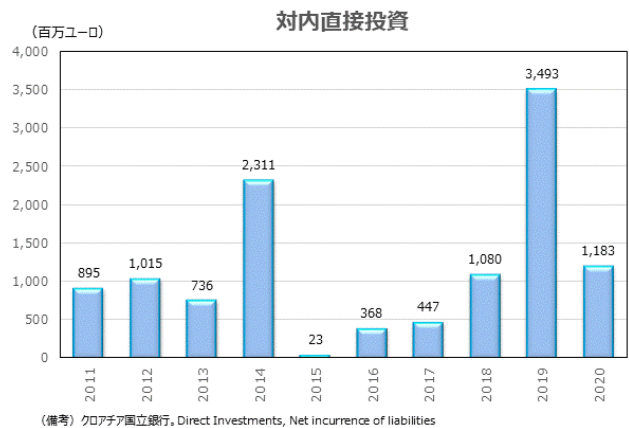
産業別GDP（2020年）



信用格付け（Credit rating of the Republic of Croatia）

Fitch Ratings			Moody's			Standard & Poor's		
Date	Rating	Outlook	Date	Rating	Outlook	Date	Rating	Outlook
2019.4.2	BBB-	Stable	2020.11.13	Ba1	Stable	2019.3.25	BBB-	Stable
2019.6.10	BBB-	Positive	2019.4.29	Ba2	Positive	2018.9.24	BB+	Positive
2018.7.9	BB+	Positive	2017.3.13	Ba2	Stable	2018.3.26	BB+	Stable
2018.1.15	BB+	Stable	2016.3.14	Ba2	Negative	2017.9.25	BB	Positive
2017.1.30	BB	Stable	2014.3.24	Ba1	Negative	2016.12.19	BB	Stable
2015.8.3	BB	Negative	2013.2.1	Ba1	Stable	2015.7.20	BB	Negative
2014.8.11	BB	Stable	2012.5.31	Baa3	Negative	2014.1.24	BB	Stable
2014.2.14	BB+	Negative	2008.11.19	Baa3	Stable	2013.8.2	BB+	Negative
2013.9.20	BB+	Stable	2007.7.18	Baa3	Positive	2012.12.14	BB+	Stable
2012.11.29	BBB-	Negative	2002.1.14	Baa3	Stable	2010.12.21	BBB-	Negative

（備考）クロアチア国立銀行。Long Term Issuer Rating for Foreign Currency.



(本クロアチア情勢は、クロアチアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項については在クロアチア日本大使館の見解を示すものではなく、また、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。)